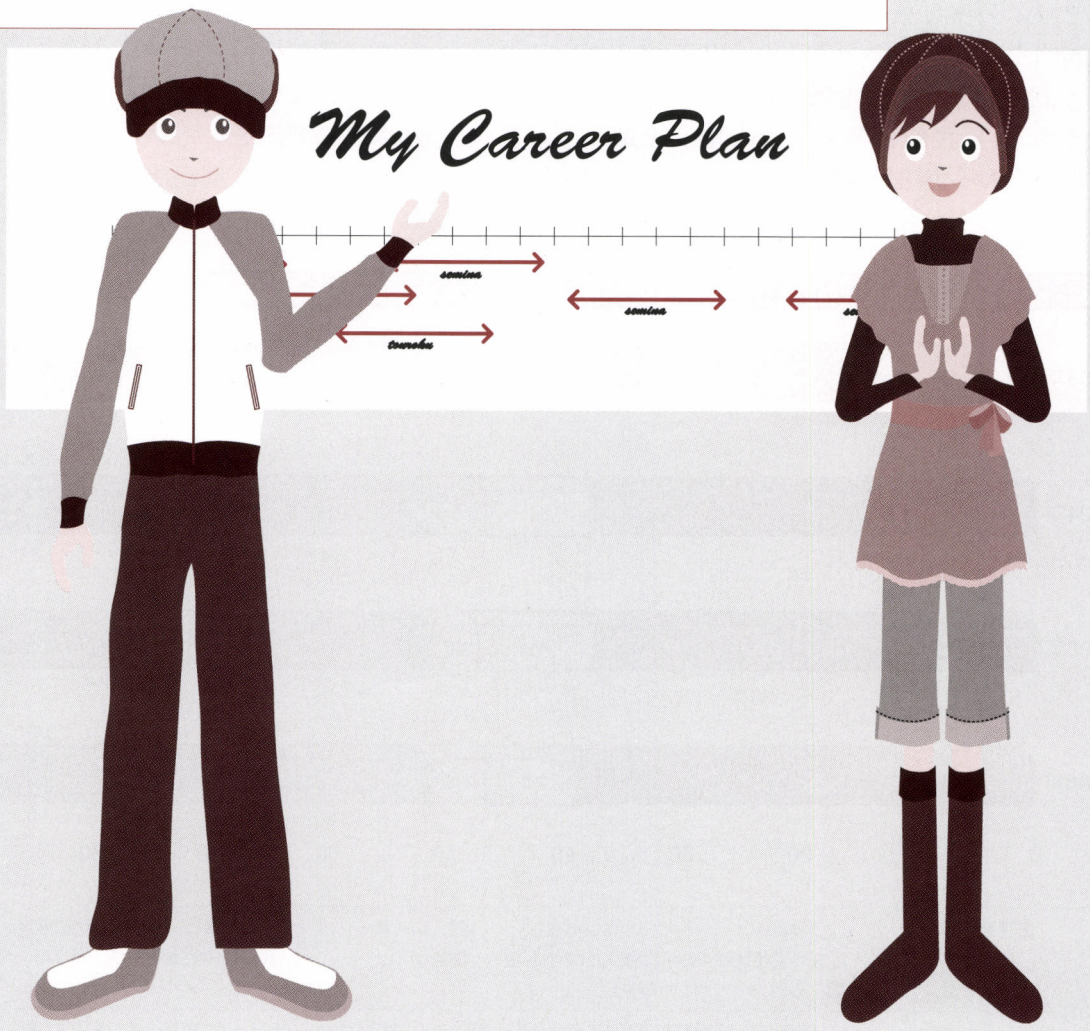
2 将来設計（キャリアプラン）と準備について

卒業直後の希望進路（経年変化） …… 20
希望進路にも景気回復が影響？
公務員志望者の比率（全体）：03年度9.1%⇒04年度8.9%⇒05年度9.9%⇒今年度7.8%

卒業直後の希望進路（所属箇所・学年別） …… 22
教員を目指す人の比率は4年生になると激減
3年：6.6%　⇒　4年：1.4%

将来設計に向けた準備状況 …… 24
インターンシップはやりたくてもできない？
インターンシップについての情報・サービスを大学から提供してほしい（全体）：19.3%
インターンシップをやっている（全体）：3.1%

卒業後の希望進路決定時期 …… 27
学部学生の7割は希望進路を大学時代に決める
「希望進路を考え始めたのは大学に入ってから」と回答した4年生：69.8%



希望進路にも景気回復が影響？

卒業直後の希望進路（経年変化）

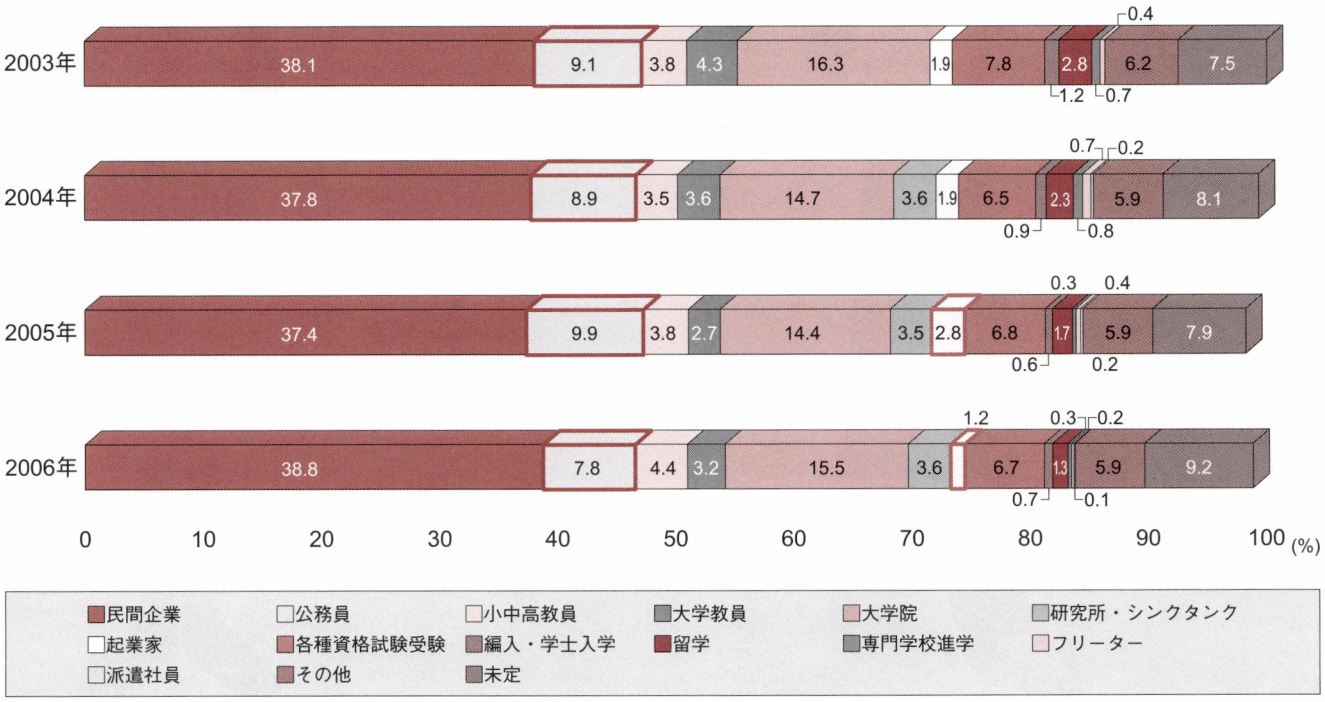
POINT

公務員志望者の比率（全体）：
03年度**9.1%**⇒04年度**8.9%**⇒05年度**9.9%**⇒今年度**7.8%**

卒業直後の希望進路において「公務員」を希望する学生の比率に注目してみますと、03年度の調査では9.1%、以下04年度8.9%、05年度9.9%と、これまでの3年間はあまり変化が見られなかったのに対し、今年度は7.8%と、1年前に比べ2.1ポイントほど減少しています。これは一見、大した差ではないように感じられるかもしれませんが、各年度とも回答者数が3,000人以上と多いので、統計的には意味のある差であると判断することができます。不況時に人気があると言われている公務員を希望する学生が今年度に入って減少したことは、景気がようやく回復局面に入ったと言われていることが影響していると考えらます。

では、公務員を希望する学生が減った分、自分の進路をどうしたいと考える学生が増えているのでしょうか。今年度の回答比率を05年度と比べて見ますと、「民間企業」と「未定」を選んだ学生の比率がやや増加しています。「景気の回復に伴い、安定した公務員からより高い給与や興味を持てる仕事が期待できる民間企業に志望者がシフトしたのではないか」という仮説は説得力がありますが、ここでの「民間企業」を選んだ学生の比率の増加は、統計的に意味のあるものと考えるのは難しく、回答した学生に民間企業志望者が「偶然」多く含まれていたと判断するほうが適当です。一方、「未定」を選んだ学生の比率の増加は、統計的に意味があると判断できます。すなわち、公務員を希望する学生が減った分、進路未定の学生が増えたと見ることができるのです。これには、次のような理由付けが可能でしょう。景気が落ち込んでいる時期は、自分の将来に危機感を持っている学生が比較的多く、そのような学生は、安定した進路を早めに選ぶ傾向があると考えられます。一方、景気に明るさが見えてくると、危機感をあまり持たない学生が増え、そのような学生は安定性以外の要因をいろいろ考慮して進路を決定しようとするため、進路決定に時間がかかると考えられるということです。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（経年変化）

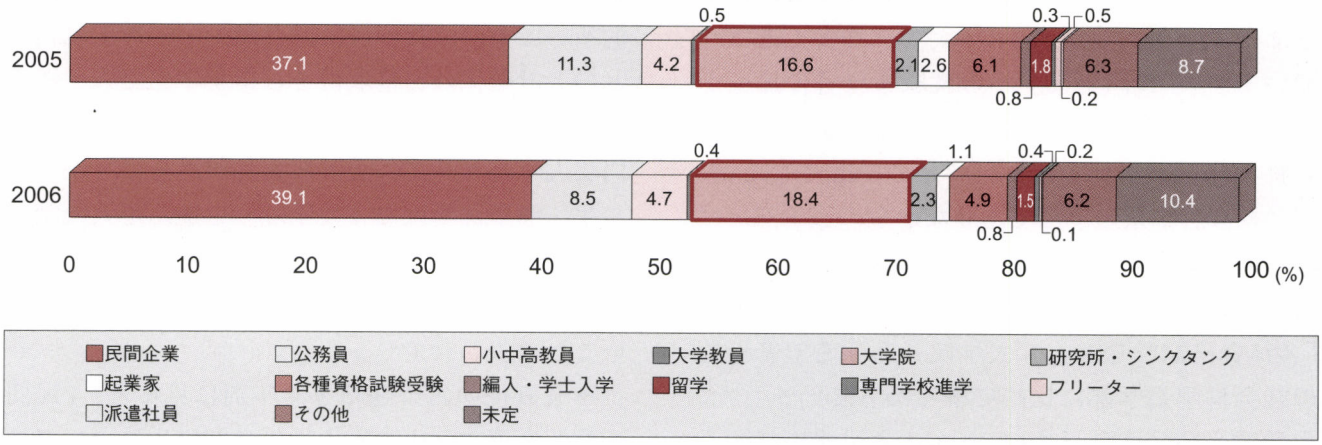


※2003年度選択肢においては「研究所・シンクタンク」は「大学教員」に含まれる。「派遣社員」はない。

今年度の回答比率を05年度と比べた時に、「起業家」を選んだ学生の比率が、今年度は低下していることも目に付きます。これは、景気動向とはあまり関係ないと思われますが、某有名青年起業家が今年に入って証券取引法違反容疑で逮捕されたことと関係がありそうです。

学部学生に限って、今年度の回答比率を05年度と比べて見ると、今年度は「大学院」を選んだ学生の比率が増加しています。しかし、学部学生・大学院学生を合わせた全体では、「大学院」を選んだ学生の比率は今年度やや増加しているものの、統計的に意味があると判断するのは難しい程度のわずかな増加です。これは、大学院に進学しても博士課程までは進まず、修士課程までで学業を終えることを希望する学生が増加していることを示しており、法務研究科、会計研究科といった、専門職大学院への進学希望者が増えてきていることを物語っていると考えられます。

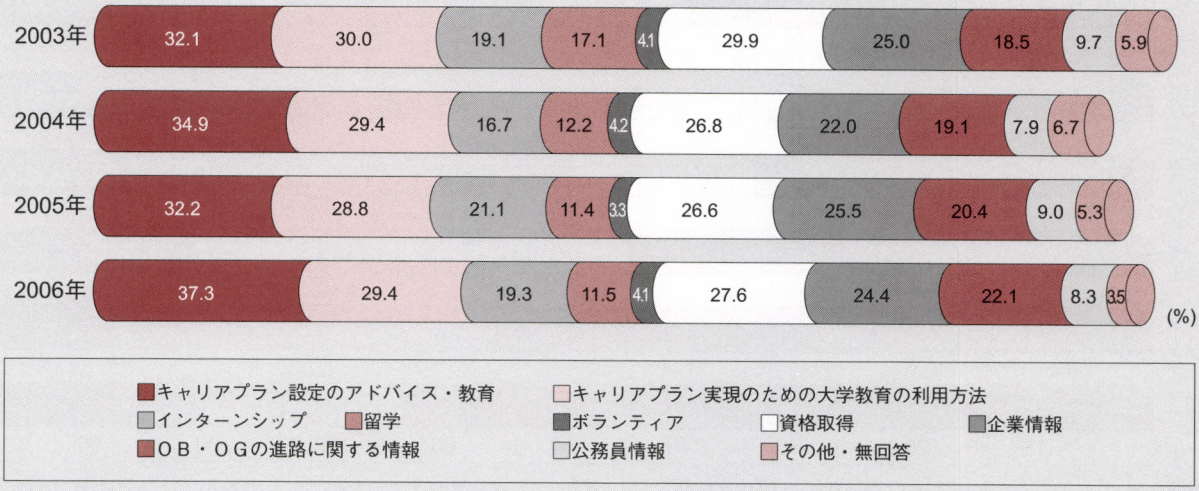
学　部　学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（経年変化）



コラム

将来設計について

将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいか、という設問に対して、今年度目立ったのは、「キャリアプラン」に関する2項目のポイント増です。なかでも「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」が5.1ポイントも増加しています。単に就職活動に止まらず、学生自身、どのようにして自分が目指すキャリアを選択していけばいいのか、迷っている姿がこの数字から見えてきます。今後ますますキャリアセンターが提供するアドバイスや情報が重要になってくると思われます。



教員を目指す人の比率は4年生になると激減

卒業直後の希望進路（所属箇所・学年別）

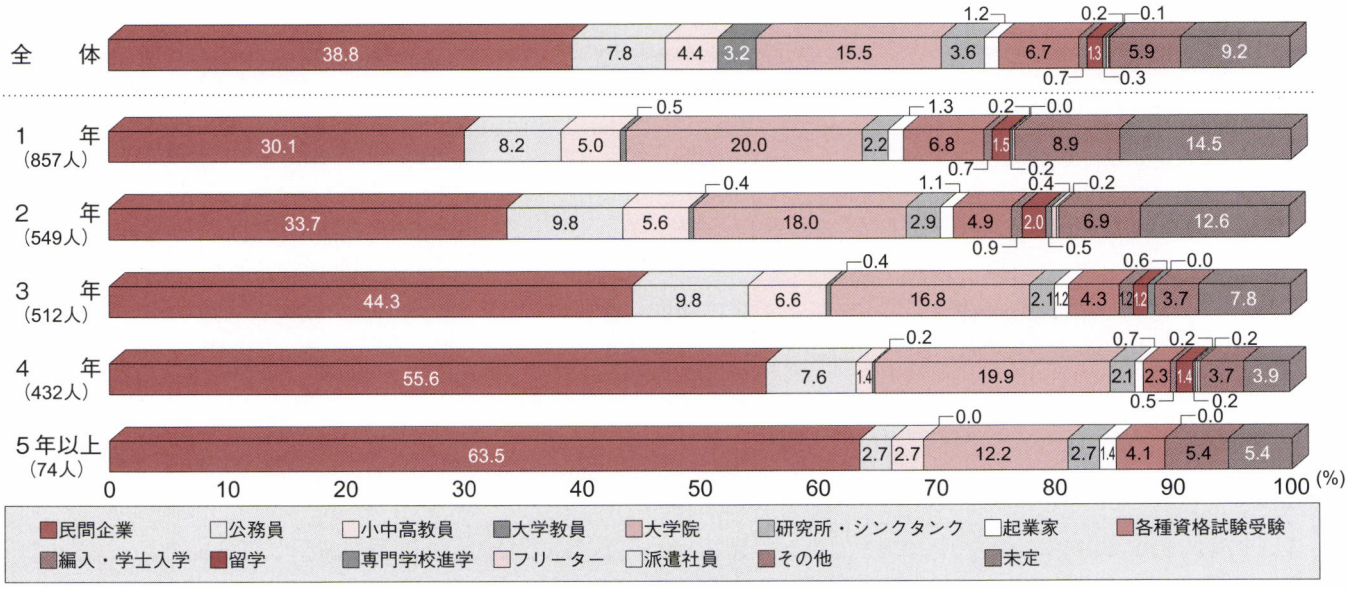
POINT　3年：**6.6%**　⇒　4年：**1.4%**

学生が選んだ卒業直後の希望進路のうち、全体で最も多かったのは、「民間企業」でした。

学部学生に限ると、所属箇所別に見ても、理工学部を除くすべての学部において一番多く選ばれています。「民間企業」への就職希望者の比率が高い学部は、高い順に商学部、政治経済学部、社会科学部といずれも社会科学系の学部でしたが、同じ社会科学系の学部でありながら、法学部だけはこの希望者の比率が3割弱と例外的に低くなっていました。法学部ではその代わりに「公務員」、「各種資格試験受験」、「大学院」進学希望者が他の社会科学系学部に比べて多くなっていました。大学院法務研究科学生の9割が「各種資格試験受験」を希望しているという調査結果と、法学研究科よりも法務研究科の方がはるかに学生が多いという事実にかんがみるならば、法学部の「大学院」進学希望者も、そのうちのかなり多くの学生は最終的に司法試験などの受験を希望していると見なしてよいと思われます。そうなると、法学部の学部学生のうち「最終的に」各種資格試験の受験を希望している学生の比率はかなり高いと考えることができます。法学部ほどではないにせよ、商学部においても「各種資格試験受験」希望者が比較的多いですが、これは公認会計士・税理士試験などの会計関係の資格取得を目指す学生たちと考えられます。一方で、早稲田大学には会計関係の専門職大学院として、会計研究科があるにもかかわらず、商学部学生で「大学院」を選んだ人の割合が3.7%と全学部の中でも比較的低いのは、商学部が多様な専門領域を有し、将来への選択肢が広いことの表われでしょうか。

卒業直後の希望進路を学年別に見ると、「民間企業」を選ぶ学生の比率は、学部学生については学年が上がるにつれて一貫して増加しています。大学院学生も含めた学生全体では4割近い「民間企業」就職希望者も、1年生に限れば3割程度です。これが3年生では14ポイント以上高くなっています。一方、「その他」「未定」と回答した学生の比率は、学年が進むにつれどんどん減少しています。この減少した分が、民間企業志望にシフトしてい

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？　学年別



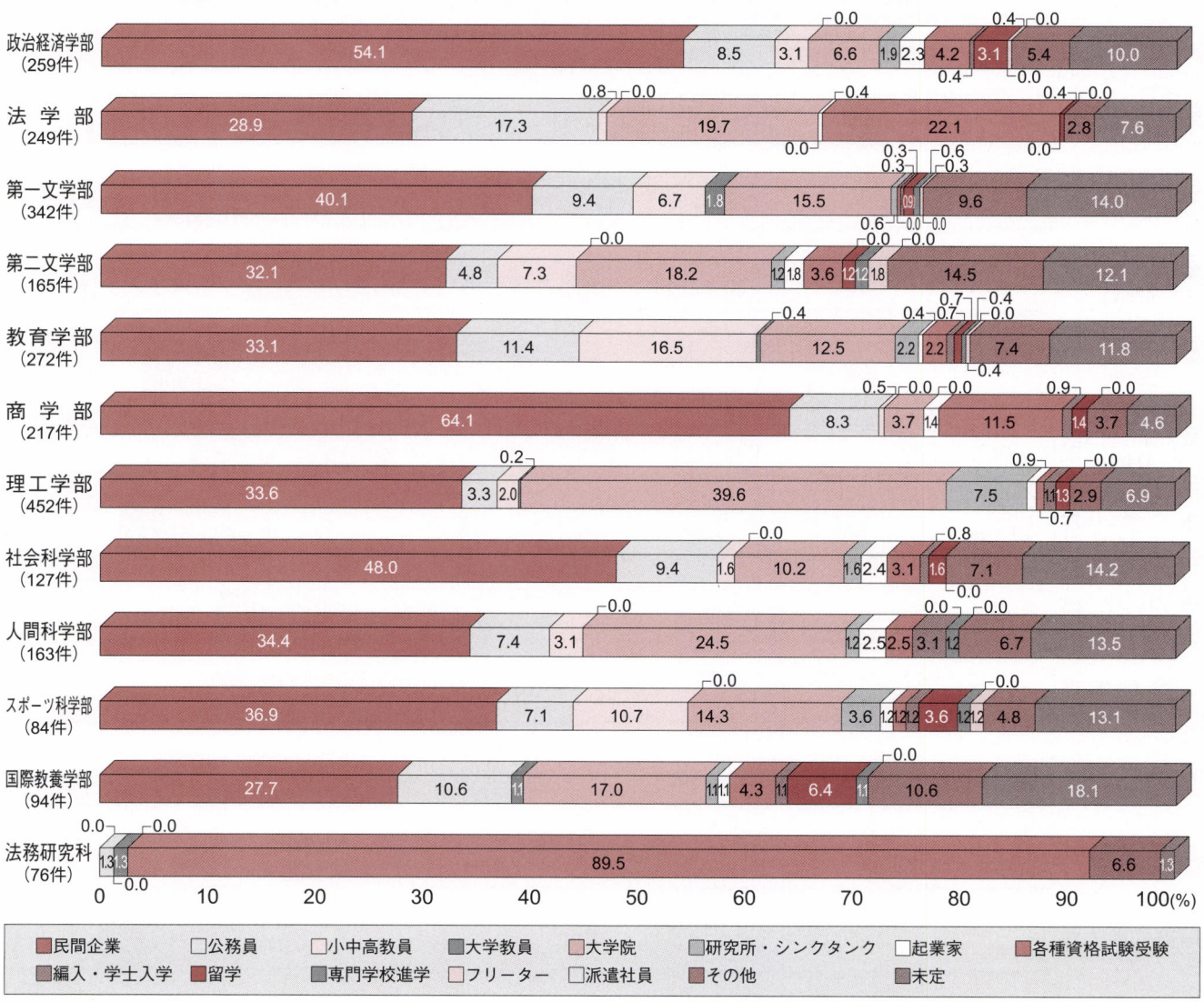
ると推測できます。

所属箇所別に見ると、社会科学系の学部のうち、政経・法・商の各学部では、希望進路を「未定」と答えた学生の比率は10%以下ですが、社会科学部では14.2%と国際教養学部に次ぐ高さです。学年別のグラフを見ると、1、2年生には進路「未定」の人が少なくないことが分かります。したがって、まだ3年生までしかいない国際教養学部で「未定」と答えた学生の比率が比較的高いことは無理からぬことですが、社会科学部の「未定」率の高さはその原因が気になるところです。なお、学年別に見ると、「未定」と答えた学生の比率は、1年生と2年生ではあまり変わっていませんが、3年生になると大きく減少し、4年生ではさらにまた大きく減少しています。ゆえに、入学時点で進路未定の学生が進路を決め始めるのは、2年生の後半くらいからと考えることができます。

「小中高教員」を選ぶ学生の比率は、4年生は3年生に比べ大きく減少しています。この「4年生と3年生以下のギャップ」の原因は何でしょうか。ややうがった見方かもしれませんが、入学時には「小中高教員」を志望していたものの、教職科目の履修や教員採用試験の準備が間に合わないために、4年生になってあきらめた、という学生がかなりいるのかもしれません。そして、あきらめた学生の多くは、「民間企業」に志望を変更しているのかもしれません。4年生で「民間企業」を選んでいる学生の比率は、3年生のそれより10ポイント以上上がっています。

国際教養学部と第一・第二文学部では、希望進路として「その他」を選んだ学生の比率が、比較的高くなっていますが、「その他」を選んだ学生は、設問の選択肢にない進路としてどのような道を考えているのか、興味を引かれるところです。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？［複数選択可］ 所属箇所別 (大学院は一部抜粋)



インターンシップはやりたくてもできない？

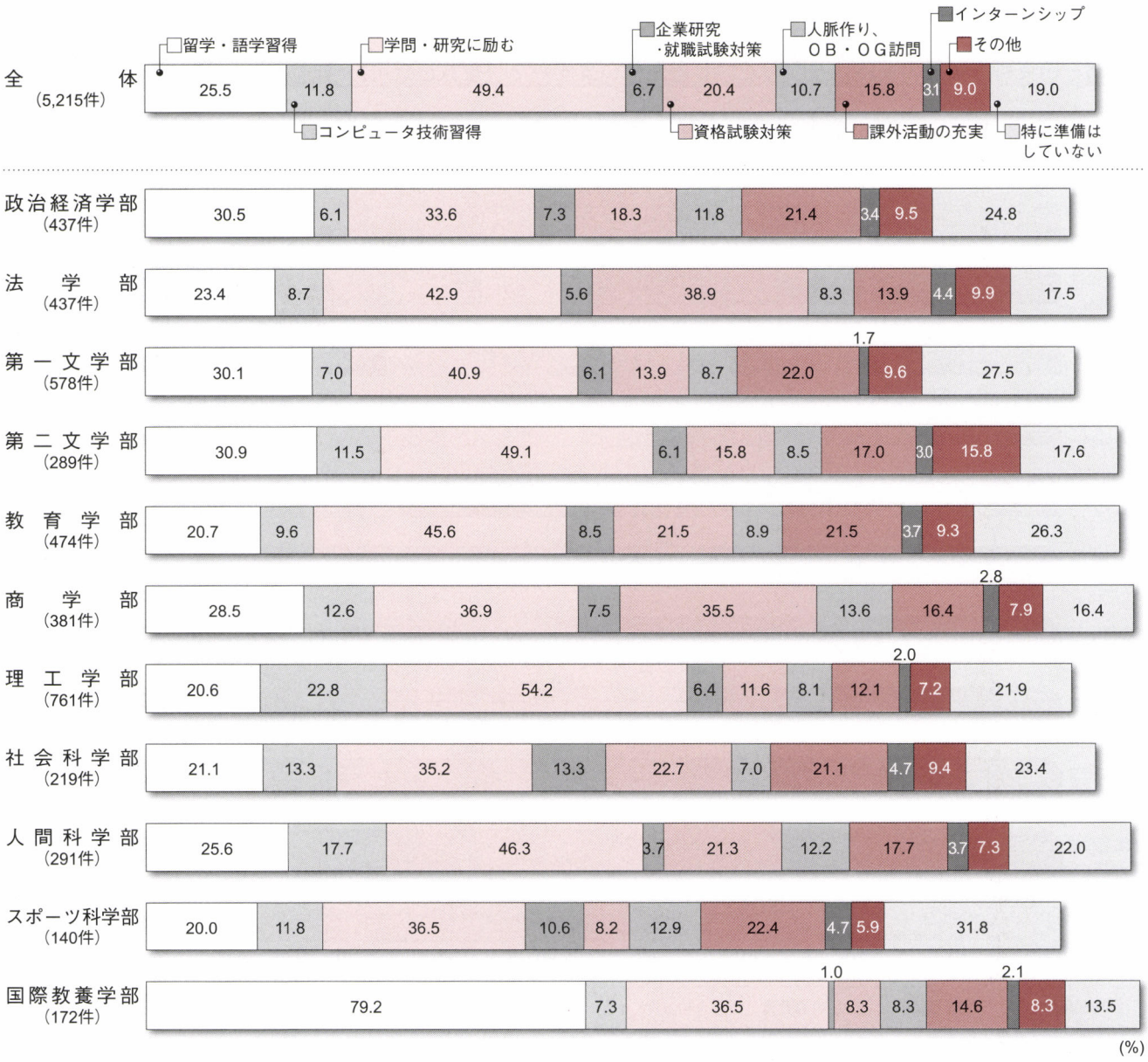
将来設計に向けた準備状況

POINT インターンシップについての情報・サービスを大学から提供してほしい（全体）：**19.3%**
インターンシップをやっている（全体）：**3.1%**

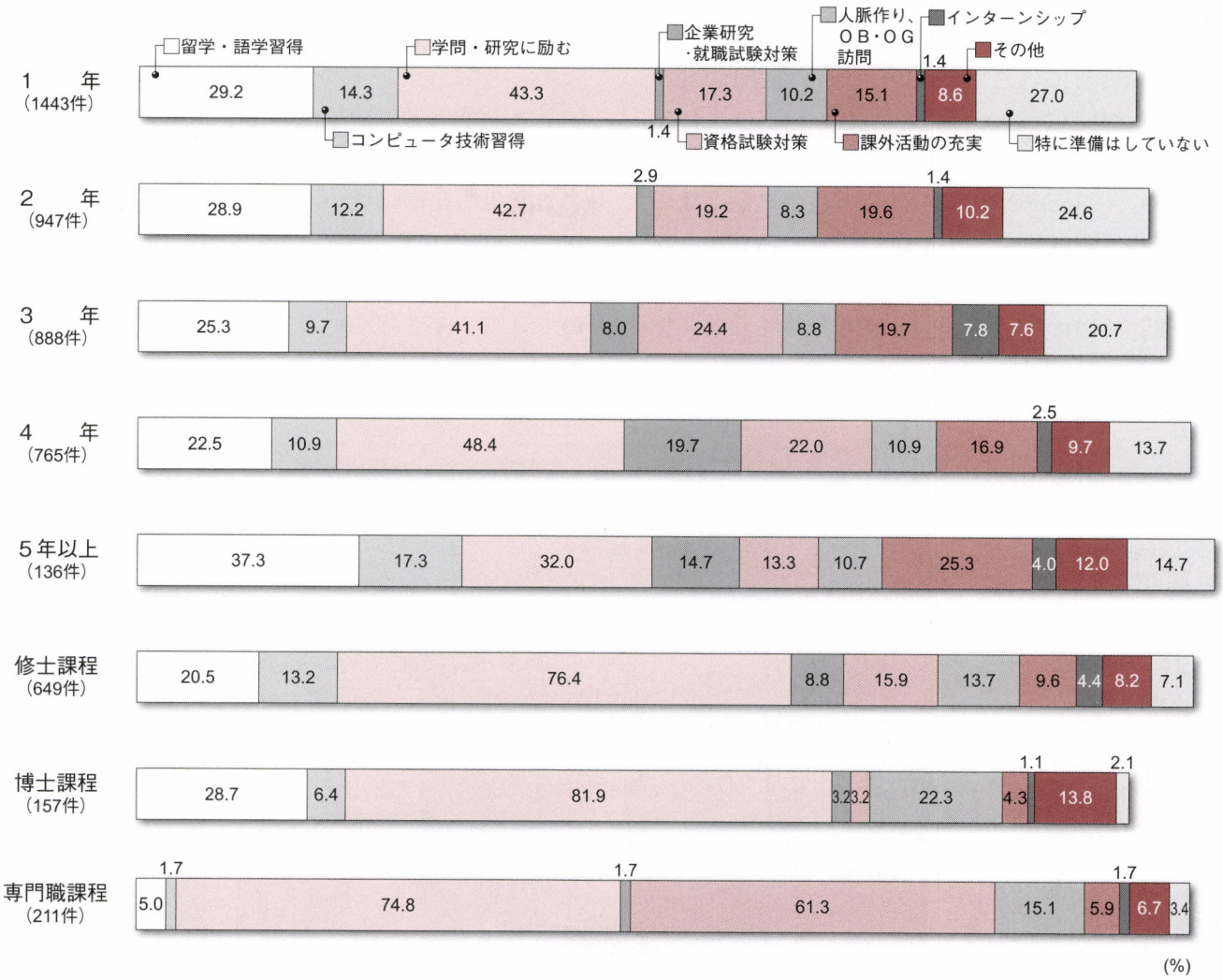
学生が将来設計に向けて現在行っている準備については、学生の所属箇所によってかなり差が見られました。

まず、将来設計に向けた準備として、「留学・語学取得」に取り組んでいると回答した学生の比率は、国際教養学部が群を抜いて高くなっています。在学中の留学を必修としている学部ならではの取り組みを考えれば当然のことかもしれません。「コンピュータ技術習得」と回答した学生の比率については、理工学部学生の高さは当然のことながら、その一方で経済学科のある政治経済学部の学生の低さが気になります。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？［複数選択可］　所属箇所別



将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？［複数選択可］ 学年別



「学問・研究に励む」と回答した学生の比率については、理工学部の高さが目を引きます。「卒業直後の希望進路（所属箇所）」のところで挙げたグラフ（23頁参照）で明らかなように、理工学部では「大学院」進学希望者が圧倒的に多くなっています。「大学院」進学希望者が多ければ「学問・研究に励む」学生が多いのは当然のことでしょう。一方で、「学問・研究に励む」と回答した学生の比率の、政治経済学部・商学部・社会科学部における相対的な低さも目立っています。もっとも、低いといってもあくまで他の学部と比較した場合に相対的に低いというだけで、いずれも35％前後であり、大学教育に携わる者としてはほっとさせられます。

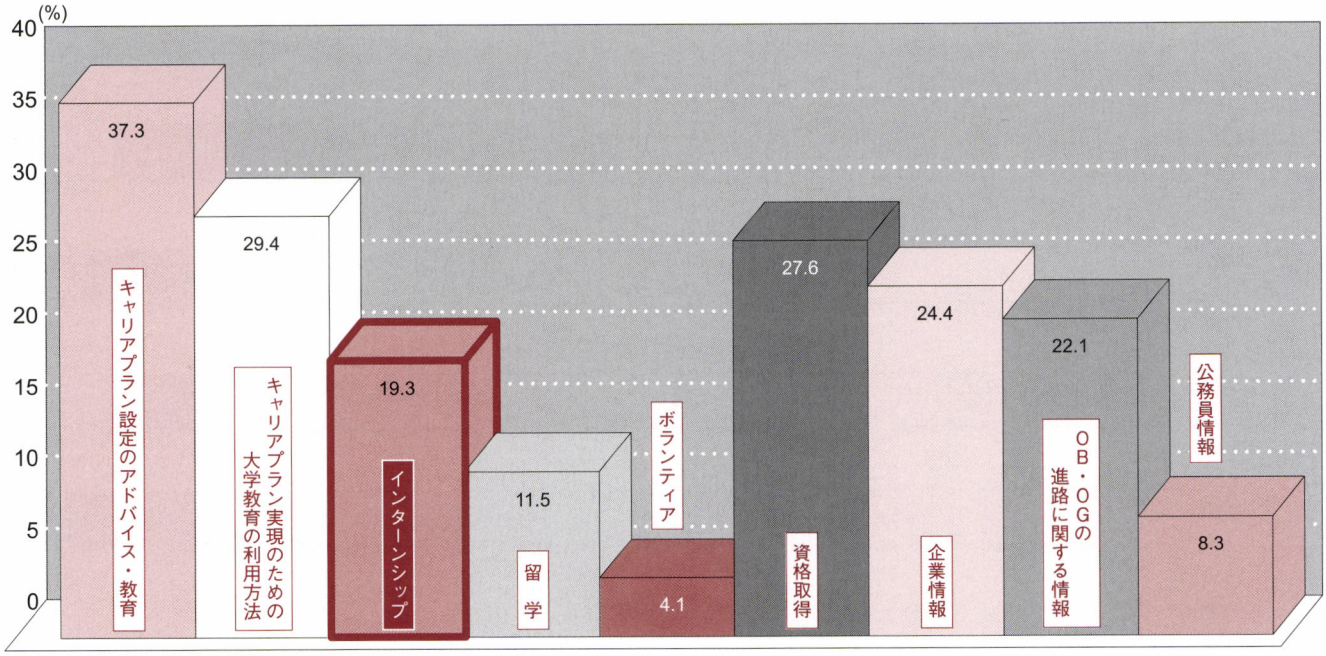
将来設計に向けた準備として、「企業研究・就職試験対策」を選んだ学生の比率は、社会科学部が比較的高くなっているのに対し、同じ社会科学系学部であっても政治経済学部や商学部においてはそれほど高くありません。これはどういう理由によるのでしょうか。

法学部と商学部では、「資格試験対策」に取り組んでいると回答した学生の比率が比較的高くなっています。社会科学部もそのような学生の比率は2割を超えています。しかし、同じ社会科学系学部でも政治経済学部では2割を切っています。これは、社会科学系の資格試験と言えば、法曹関係か会計関係がその多くを占めているという現状の表れと見ることができるでしょう。

将来設計に向けた準備として、「インターンシップ」を選んだ学生の比率は、いずれの学部でも5％を下回っており、高いとはいえません。大学院学生を含めた全体でも3.1％です。学部1・2年生のうちからインターンシップをやる人はあまりいないのは当然のこととしても、学部3年生に限っても「インターンシップ」をやっていると回答した学生の比率は7.8％に過ぎません。

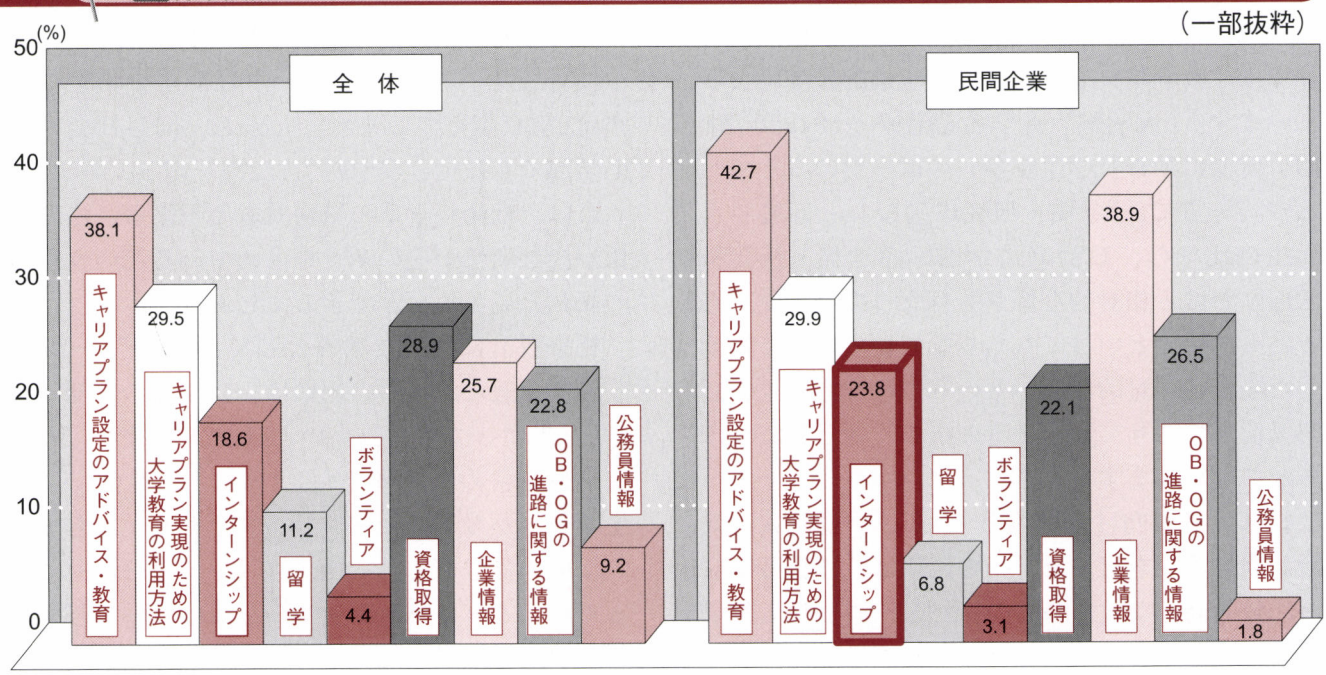
しかし、学生がインターンシップに関心がないかといえば、決してそうではないようです。「将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか?」との設問に対して、「インターンシップ」と答えている学生の比率は、学部学生に限っても大学院学生まで含めた全体でも、およそ2割にもなります。「卒業直後の希望進路（所属箇所・学年別）」（22・23頁グラフ参照）のところで見たように、希望進路として「民間企業」を挙げた学部学生は最も多くなっていますが、「民間企業」志望の学部学生に限った場合、この設問に対して「インターンシップ」と回答している学生の比率は、4分の1近くにもなります。このようにインターンシップに関する情報・サービスを求めている学生の比率が比較的高い一方で、実際にインターンシップをやっていると回答した学生の比率は低いという現状を見ると、インターンシップは「やりたいけれど、情報・サービスが不十分でできない」という学生がかなりいるのではないかと推測できます。

将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？［複数選択可］



学部　クロス集計　学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？
凡例 将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？［複数選択可］

（一部抜粋）



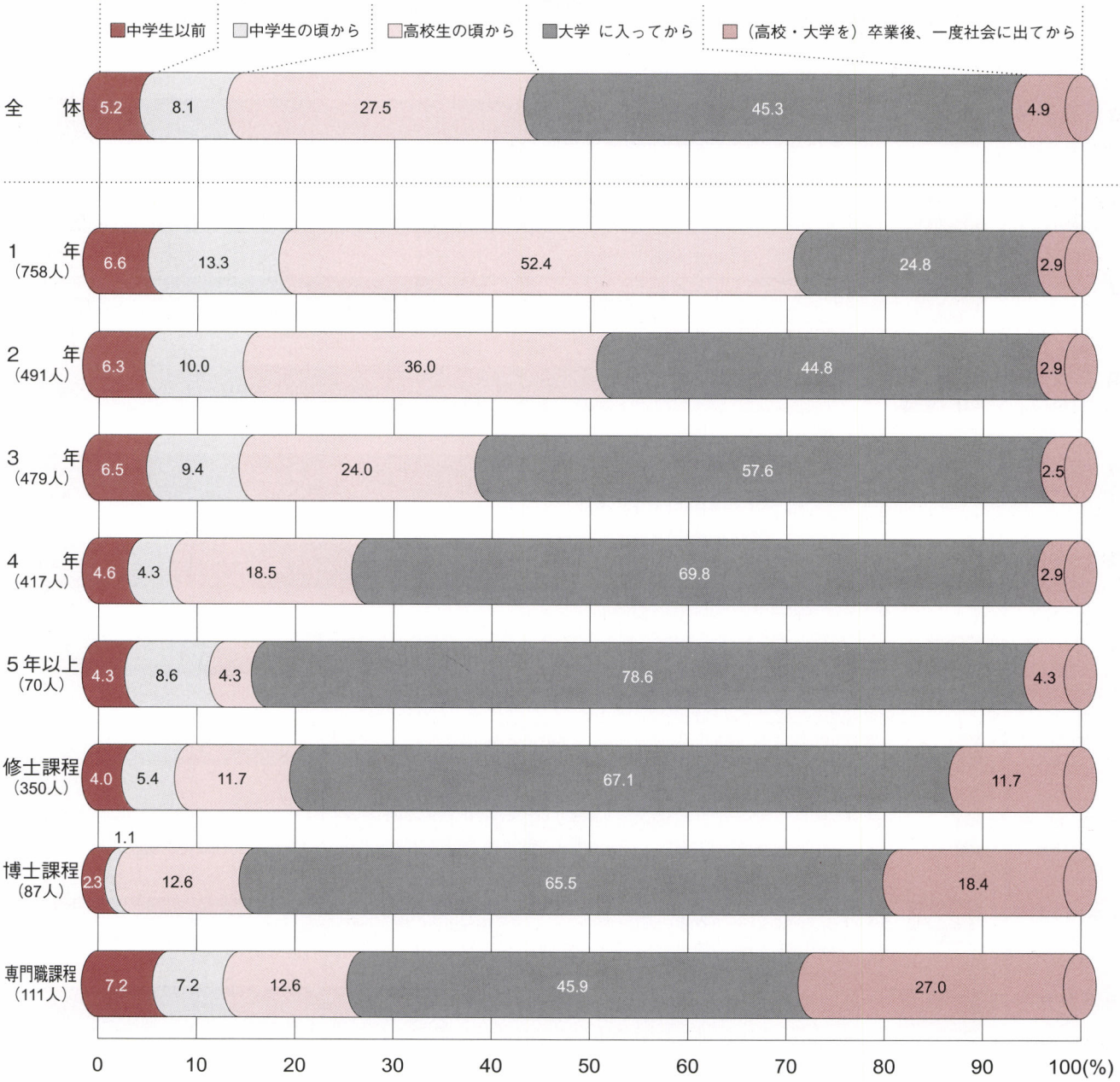
学部学生の7割は希望進路を大学時代に決める

卒業後の希望進路決定時期

「希望進路を考え始めたのは大学に入ってから」と回答した4年生：**69.8%**

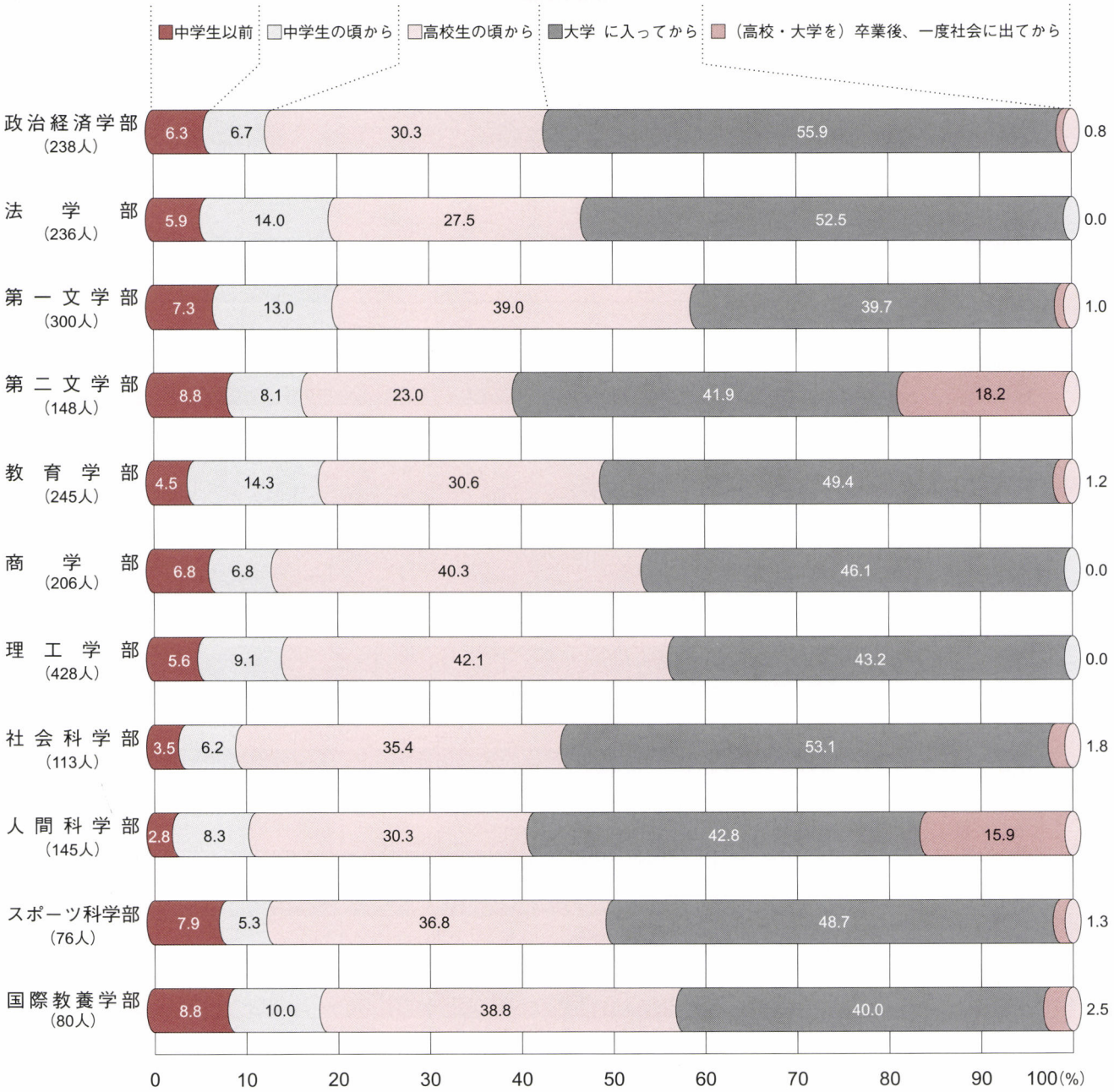
4年生に卒業後の希望進路を尋ねると、およそ96%が「未定」以外の何らかの項目を回答しています（22頁グラフ参照）。そして、やはり4年生にその希望進路の決定時期を尋ねると、およそ7割が「大学に入ってから」と回答しています。学部学生は、ごく一部を除けばだれでも卒業前には必ず4年生になるわけで、この結果は7割の学部学生にとって、大学が「自分の将来を見定める場」となっていることを物語っています。

進路を考え始めたのはいつくらいからですか？ 学年別



所属箇所別に見ると、希望進路の決定時期を「高校生の頃から」と回答している学生の比率が理工学部学生において比較的高くなっています。高校での学業を通じて、科学技術を一生の仕事にしようと考えるようになった学生は多そうです。理工学部ほどではありませんが、第一文学部でも「高校生の頃から」と回答している学生の比率が高くなっています。これも高校での学業を通じてのことと考えられます。

教育学部では、希望進路の決定時期を「中学生の頃から」と回答している学生の比率が比較的高くなっています。小・中学校教員を目指す学生の多い教育学部で、中学生の時に進路を決めた人が比較的多いのは、納得できることです。法学部でも希望進路の決定時期を「中学生の頃から」と回答している学生の比率が比較的高いですが、中学生時代に法律家に対するあこがれを抱いた人が多いのでしょうか。商学部では、希望進路の決定時期を「高校生の頃から」と回答している学生の比率が、政治経済学部に比べ10ポイント程度高くなっていますが、これも、高校生時代に会計のスペシャリストへの憧れを抱いた人が多いことを示しているのかもしれません。

なお、国際教養学部は現時点ではまだ3年生までしかいないので、単純に他学部と比較することはできないでしょう。

進路を考え始めたのはいつくらいからですか？　所属箇所別